研究制度評価個票（事前評価）

1. 全体の取組（概要）

課題名：スタートアップ日本成長戦略フードテック対策（新規）

スタートアップ日本成長戦略フードテック対策

令和９年度予算概算要求額　36,750百万円（前年度　－）

＜対策のポイント＞

日本成長戦略フードテック４領域（植物工場、陸上養殖、食品機械及び新規食品）**のスタートアップが有する革新的技術について、**商業化につながる**事業化モデルの構築**と**速やかな社会実装を促進**するため、SBIR制度※のもと、需要創出、量産体制の確立、民間投資の拡大等に資する**大規模技術実証等の研究開発を集中的に**支援します。

※スタートアップ等による研究開発とその成果の事業化を支援し、それによる我が国のイノベーション創出の促進を目的とした省庁横断的な制度（Small/Startup Business Innovation Research）。

＜事業目標＞

スタートアップが有する技術の事業化割合80%［令和14年度］

＜事業の内容＞

スタートアップ事業化促進技術実証支援事業　**36,750百万円**（前年度　－）

食料安全保障を確保するとともに、稼げる農林水産業・食品産業の創出に向けて、**フードテック４領域の新たな市場開拓に資するスタートアップの**革新的な技術を早期に社会実装するため、実用化段階の研究開発に対し、**大規模技術実証による量産体制の確立など事業化への取組を支援**します（勝ち筋支援タイプ）。

また、**フードテック４領域の発展や市場拡大に資するスタートアップの技術実証、技術要素の研究開発を支援**します（勝ち筋誘導タイプ）。

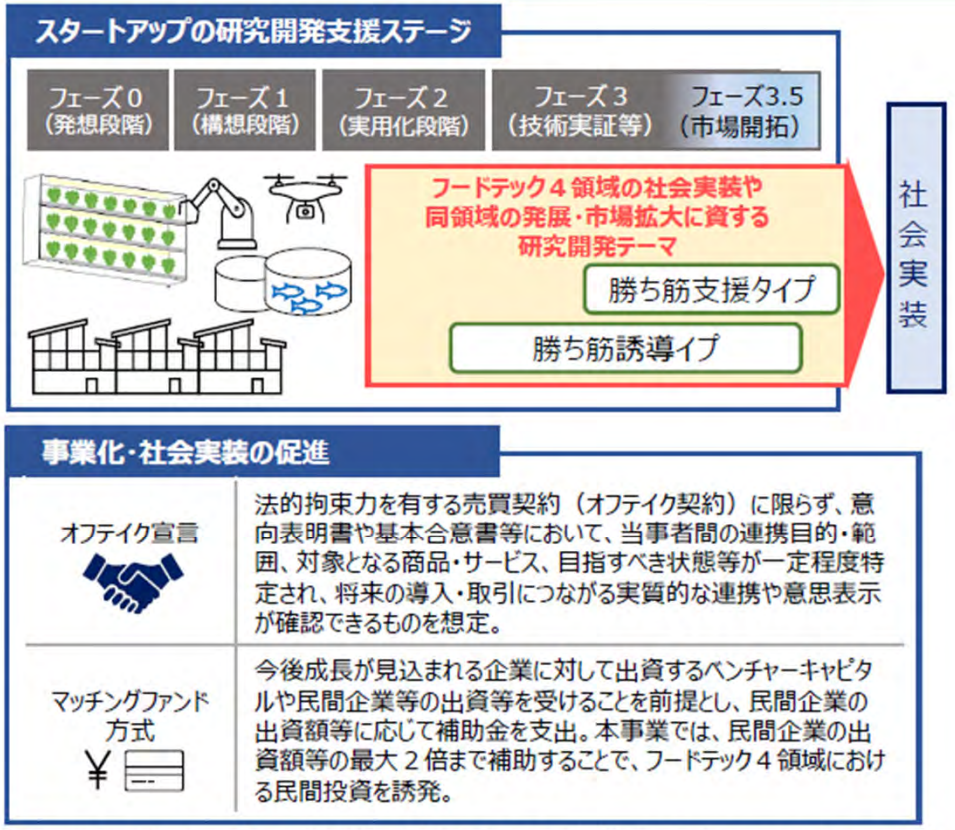
さらに、研究開発等のパートナーシップや初期需要を創出し、製品化・事業化と社会実装を円滑に進めるためのオフテイク宣言や、民間投資を誘発するマッチングファンド方式を取り入れます。

【対 象 者】スタートアップ等（複数スタートアップコンソーシアム、スタートアップを核としたコンソーシアムも可）
【補 助 率】２/３以内（コンソーシアムに参画する大企業は１/３以内（勝ち筋誘導タイプ））
【支援規模】上限5,000百万円/件（勝ち筋支援タイプ）
　　上限1,000百万円/件（勝ち筋誘導タイプ）
【主な要件】・マッチングファンド方式（民間企業等からの出資額、融資額等の2倍まで補助）
　　・オフテイク宣言の要件化（勝ち筋支援タイプ。勝ち筋誘導タイプは優先枠。）
　　・研究開発・技術実証等の成果の普及・展開への協力
【事業期間】３～５年間（基金方式）

＜事業の流れ＞

国 →（定額）→ 民間団体等 →（上限2/3）→ 民間団体等（スタートアップ等）

＜事業イメージ＞



［お問い合わせ先］農林水産技術会議事務局研究推進課（03-3502-5530）

2. 全体の取組（詳細）
課題名：スタートアップ日本成長戦略フードテック対策（新規）

1. 基本情報

研究課題名	スタートアップ日本成長戦略フードテック対策（新規）
研究開発官等名	研究推進課　産学連携室
連携する行政部局	省内関係行政部局
研究期間	R9～R13年度（5年間）
総事業費	367.5億円（見込）（うち新規367.5億円）
研究制度の概要	**【全体の概要】** フードテック4領域（植物工場、陸上養殖、食品機械及び新規食品）のスタートアップが有する革新的技術について、商業化につながる事業化モデルの構築と速やかな社会実装を促進するため、需要創出と量産体制の確立、民間投資の拡大等に資する大規模技術実証等の研究開発を集中的に支援する。R9年度は、以下の基金事業を新規要求する。 **【課題一覧】** スタートアップ事業化促進技術実証支援事業

3. 課題別の取組（詳細）
課題名：スタートアップ日本成長戦略フードテック対策（新規）

2. 研究内容

（1）研究の概要	成長戦略における2030年の短期目標の実現に向け、攻めの分野であるフードテック4領域（植物工場、陸上養殖、食品機械及び新規食品）の勝ち筋となるスタートアップが有する革新的技術や、実用化段階の研究開発等に対し、基金事業により集中的に支援することで、速やかな社会実装を促進する。
（2）研究の内容 ※評価項目1関連	リスクや社会課題に対し、官民連携の戦略的投資を促進し、世界共通の課題解決に資する製品、サービス及びインフラを提供することにより、更なる我が国経済の成長を実現するため、日本成長戦略本部において、危機管理投資・成長投資17分野の投資促進策と、8つの分野横断的課題に対する対応策が検討され、成長戦略が策定された。 このうち、農林水産省はフードテック4領域における日本の勝ち筋を見定め、投資内容やその時期、目標額などを含めた官民投資ロードマップ等を検討・公表した。 また、分野横断的課題の一つであるスタートアップ（SU）は、社会課題の解決に有用な革新的技術により新たな事業化モデルを構築する存在として、多くの課題を抱える農林水産・食品分野でも期待される存在であるとともに、日本成長戦略本部のスタートアップWGにおいて、①SUのスケールアップ、②ディープテック・スタートアップへの支援、③地域の経済社会を担うSUの創出・育成の3本柱を通じて「5か年計画」の強化に取り組むこととされた。 このため、本対策により、フードテック4領域のSUが有する革新的技術や実用化段階の研究開発等に対し、成長戦略の短期目標の実現に向け集中的に支援し、速やかな社会実装を促進することとしている。 なお、SBIR制度のもと、省内・他省庁においてSUの各段階に応じた支援が措置されているが、成長戦略のうちフードテック4領域の技術に限り支援対象とする事業は他になく、本事業は、大規模技術実証を通じた事業化モデルの構築による社会実装につながるものである。
（3）研究推進体制 ※評価項目4関係	フードテック4領域の社会実装や発展・市場拡大に資する研究開発テーマを設定し、スタートアップからの提案を公募することを想定。それらを外部有識者等で構成される審査委員会で厳正な審査のうえ、採択を決定する。採択後は、外部有識者等で構成される評価委員会での評価を実施し、実証成果が乏しい、事業化の見込みが小さい等の場合は取組内容の見直しや中止を指示するような仕組み（ステージゲート機能）を検討しているほか、進行管理体制については、関係者によるフォローアップ会議により適切な進捗管理と指導・助言を行う仕組みを考えている。 SUの応募要件については、ベンチャーキャピタル（VC）等の出資を受けることを前提とし、VC出資額等の2倍まで補助する（補助率2/3以内）ことを想定。

3. 課題別の取組（詳細）
課題名：スタートアップ日本成長戦略フードテック対策（新規）

2. 研究内容（続き）

（4）アウトプット目標 ※評価項目2関連	フードテック4領域の研究開発の取組（取組数15以上） 研究開発の取組の結果として、研究開発テーマに掲げる技術の開発や事業化モデルの構築が達成されることから、取組数をアウトプットとして設定。明確に数値として測ることが可能であり、かつ（3）の通り厳正な審査により取組を選定することから、数値の達成はもちろんのこと、有望な取組を厳選したうえで支援することが可能である。
（5）アウトカム目標 ※評価項目3関連	採択SUが有する技術の事業化割合80%（令和14年度） スタートアップ事業化促進技術実証支援事業の取組により、研究開発テーマの大規模技術実証による量産化体制の確立とともに、オフテイク宣言を通じ初期需要の創出や民間投資の拡大につながると考えられることから、事業化割合を80%をアウトカムとして設定。また、本事業においては、採択SUに対し、事業の進行管理や投資家等とのマッチング機会の提供等の伴走支援を行うことで、事業化を推進する
（6）予算の主な項目とその内容 ※評価項目4関係	1件当たりの想定交付額は、実証施設整備費、機械・設備費、材料費、光熱水費、人件費等の費用として、勝ち筋支援タイプが最大年50億円、勝ち筋誘導タイプが最大10億円、管理運営費が17.5億円（いずれも事業実施5年間の交付上限額）。
（7）その他補足事項	

4. 評価
課題名：スタートアップ日本成長戦略フードテック対策（新規）

【項目別評価】

項目名	ランク（A～C）
1. 研究内容の妥当性	A
2. 研究目標（アウトプット目標）の妥当性	A
3. 研究が社会・経済等に及ぼす効果（アウトカム）の目標とその実現に向けた研究成果の普及・実用化の道筋（ロードマップ）の明確性研究目標（アウトプット目標）の妥当性	B
4. 研究計画の妥当性	A

【総括評価】

1. 研究の実施（概算要求）の適否に関する所見	ランク（A～C）
・日本成長戦略及びフードテック分野の国際競争力の観点から、本研究制度を新たに実施する意義は大きい。 ・研究開発から事業化まで見据えた技術実証、オフテイク宣言、民間投資誘導及びステージゲート・フォローアップ会議など制度設計は適切。	A
2. 今後検討を要する事項に関する所見	
・技術の社会実装や事業化に資するような支援体制の充実化が必要。 ・ステージゲートの明確化、フォローアップの充実化が必要。 ・国際市場を見据えた展開戦略や知財戦略及び各種規制に関する省庁横断の調整体制を推進する必要。 ・知財専門家を審査・伴走支援体制に加え、知的財産管理や海外への技術流出防止に関するルール整備を行う必要。 ・アウトカム目標について、民間投資の呼び水となり、市場の開拓につなげるために明確なものとすべき。	

5. 用語集

課題名：スタートアップ日本成長戦略フードテック対策（新規）

用語	用語の意味	頁等 該当箇所
フードテック	多様な食の需要に対応し、社会課題の解決を加速するための、生産から加工、流通、消費等へとつながる食分野の新しい技術及びその技術を活用したビジネスモデル。	1
スタートアップ	本来の意味は「立ち上げ」や「起業」などであるが、SBIR制度においては、原則設立15年以内の革新的な研究開発を行う中小企業のことをさす。	1
ベンチャーキャピタル	ハイリターンを狙ったアグレッシブな投資を行う投資会社（投資ファンド）のこと。主に高い成長率を有する未上場企業に対して投資を行うほか、経営コンサルティングなどを提供し、投資先企業の価値向上を図るベンチャーキャピタルも存在する。	1
ディープテック	特定の自然科学分野での研究を通じて得られた科学的な発見に基づく技術であり、その事業化・社会実装を実現できれば、国や世界全体で解決すべき経済社会課題の解決など社会にインパクトを与えられるような潜在力のある技術。	3
初期需要の創出	スタートアップの技術実証から事業化に至る段階における、資金調達及び顧客基盤・販売実績・信用力等の不足を解決し、円滑に事業化するために初期購入先を確保すること。	4